

Title	オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響：キャロライン・ヒルをめぐって
Author(s)	木村，美里
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24-No.1, 2014.9 : 17-19
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=5165
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響 —キャロライン・ヒルをめぐって—

木村 美里

はじめに

英国の女性社会改良家オクタヴィア・ヒル (Octavia Hill, 1838-1912以下オクタヴィアとする) は様々な人々と交流し、多くの影響を受けて自らの思想を形成した。その中で今回は母親キャロライン・ヒル (Caroline Southwood Hill, 1809-1902以下キャロラインとする) を考察対象としたい。キャロラインは、オクタヴィアに思想的影響を与えた人物としてこれまで挙げた人々と同様に、オクタヴィアにおける重要な人物の一人である¹⁾。オクタヴィアにとって母親の存在は大きく、二人の関係は生涯を通して密接であった。

本稿では具体的にキャロラインの人物像、彼女の教育論及びオクタヴィアに与えた思想的影響について論じる。

1. キャロライン・ヒルについて

キャロラインはオクタヴィアの祖父サウスウッド・スミス博士 (Dr. Thomas Southwood Smith, 1788-1861) の娘である。彼女はこのユニテリアンの父親から、人としての思いやり、信仰、目的に対する強い気持ちの結びつきが素晴らしい結果をもたらすということを学ぶとともに、彼のもとで書記の仕事を手伝った²⁾。また彼女はヨハン・ハインリッヒ・ペスタロッチ (Johann Heinrich Pestalozzi, 1746-1827)³⁾ の教育に関心があり、教えながら論文の執筆も行った。この論文執筆がオクタヴィアの父親ジェームズ・ヒル (James Hill, ?-1872) との出会いをもたらした。二番目の妻と死別した後、ジェームズは子供たちの家庭教師を探しており、この時に雇われたのがキャロラインであった。ジェームズもまたペスタロッチの教育論に関心があり、キャロラインの論文を読んで感銘を受けたため、彼女に家庭教師を依頼したのである。これがきっかけとなり二人は結婚し、のちにオクタヴィアが誕生するのである。

キャロラインは信仰の深い女性であったが、自らの信仰を語ることは少なかった⁴⁾。彼女は意志が強く、自らが務めと感じたことは実行するという厳しさを持つ人物でもあった⁵⁾。それゆえに夫のジェームズが病気になった際にも自らが率先して働き、貧しい中でも子どもたちを正しい方向へ育て、導くことができたのである。

2. キャロライン・ヒルの教育論

先述のとおりキャロラインは教育に大きな関心をよせた人物であった。特にキャロラインが関心をもったのは、ペスタロッチの教育論である。オクタヴィアはキャロラインがイングランドでペスタロッチの教育方針をいち早く実践した人物の一人であると指摘している⁶⁾。それゆえに彼女の教育論について論じる。

キャロラインは教育に関する論文を1833年の *Monthly Repository* に投稿している。またキャロラインの死去の4年後に、オクタヴィアは母親の論文を編集し、『教育についての覚え書き：母親や教師へ』 (*Notes on education: for mothers and teachers*, 1906) が出版された。この書籍にはキャロラインが初期に書いた論文と未発表の論文が収められている⁷⁾。本稿ではこの著書の中から「一般原則」 (I. General Principles) の章に着目し、キリスト教的精神に基礎づけられたキャロラインの教育論について触れる。

彼女は「教育は身体のケア及び発達と心のケア及び成長という二つの分野を含む。身体のケアと発達に関しては、生理学・衛生法の知識が必要とされ、心のケアと成長には人間の心の知識・発達法及び衛生法が必要である」⁸⁾と主張する。

そして教育における女性の役割を次のように語る。「女性は神よりこの世界で神のために行う仕事として、とても高貴で気高い役割を与えられた。その役割とは教育のことである。女性は主として世の教育者である。人生の初期段階は最も重要で

あり、その時期は完全に彼女たち（女性たち）の保護下にある。その仕事は知識を要する」⁹⁾。すなわち女性は日常生活における教育的指導者であり、この仕事は神によって与えられたものであると主張する。

また、教育者は明確で確固たる目標を持つべきであると説く¹⁰⁾。子供の成長を支援すべき指針を教育者自らが示すことが重要であり、示すべき目標の如何で教育者の資質が問われると考えられる。キャロラインは聡い教育者によって与えられる主題は三つあるとして従順、良心、愛情を列挙する¹¹⁾。さらに彼女は愛、自由、従順、健康が幸せな生活を送るために必要不可欠な要素であるとみなし、教育者が指導する際に目指すべきであると述べる¹²⁾。

キャロラインは自らの教育論を語る上で、常に神の存在を意識し、キリスト教精神の下で自分の思想を形成している。彼女が「神への愛あるいはキリスト教的精神は、神と隣人との真の関係の中に人間をおく精神である。そして人間が探求すべき三つの神の特性は、神聖、愛、真理である」¹³⁾と述べることから、彼女が神との関係において人間の教育が正しい形で達成されると信じていたと考えられる。

3. オクタヴィア・ヒルに与えた思想的影響

キャロラインの教育論が目指したのは、キリスト教の精神に基づき、道徳心をもった自立した人間を育てることである。そして何よりも重要なことは、彼女がこの教育理念を実践し、オクタヴィアたちを教育したことである。先に述べた教育論を含めて、オクタヴィアがキャロラインからどのような思想的影響を受けたのか考察する。

ペスタロッチは道徳と自然を重んじ、「環境が人間を作り、人間がまた環境を作る」¹⁴⁾という考えを持っていた。キャロラインもこの影響を受けて道徳教育を重視した。したがって、ヒル家では道徳教育が重視され、同時に神が創造した自然の中に美が存在し、学ぶべきことが無限にあるというキリスト教的信仰心に基づき大自然の中で過ごした

¹⁵⁾。結果としてオクタヴィアは自然の美しさとその重要性を認識する力を養い、彼女の環境保護活動を支える考えに至ったといえる。

キャロラインにおいて、愛は教育における重要な要素の一つとして扱われている。オクタヴィアも神への愛を常に意識し、尊重した。このことはまた家族への愛および他者への愛に関してもいえることであろう。キャロラインは家族間の絆を重視しており、オクタヴィアも家族への愛情を常に忘れなかった。

このことに加えてキャロラインは従順の重要性も論文の中で提示している。従順についてはペスタロッチが自由とともにその重要性を考えたことに影響し、彼女もこの考えに共感していたといえる¹⁶⁾。キャロラインは自らの論文の中で従順の大切さを強調すると同時に、精神的な強さを育む忍耐力の重要性を主張している¹⁷⁾。このことはオクタヴィアが生涯を通じて見せた精神的な強さを裏づけるものであり、結果としてオクタヴィアが最も重要とした「永続する精神」をも導き出したと考えることができる。

この他にキャロラインが与えた思想的影響で特筆すべき点は、読書を奨励したことである。ヒル家の子供たちは正式な教育をほとんど受けなかったが、キャロラインは子供たちが読書することを容認した。オクタヴィアは読書を好み、5歳になる前から毎日長時間読書をする少女であった¹⁸⁾。彼女が広い視野をもつに至った要因の一つに、多種多様な書物に触れていた事実を挙げても差し支えない。

自らの教育学とその社会での実践に知的関心を持ち、キリスト教徒として道徳と義務を実践する母キャロラインの教えのもとでオクタヴィアは成長し、この母親の思想はオクタヴィアに生涯影響を与え続けたのである¹⁹⁾。

おわりに

オクタヴィアは幼少期から母親の独創性あふれ

る教育によって育てられた。その教育は道徳的精神、愛情および自然の美しさの理解を育むものであった。それゆえにオクタヴィアが受けた教育は単なる学問の享受ではなく、人として生きる道を示した教育である。正式な教育を受けなくてもオクタヴィアが立派に成長できた背景に、キャロラインが示した教育の指針が間違いなく存在していたといえる。

キャロラインは家庭での教育の重要性も説いている。現代社会において、女性の社会進出、母子・父子家庭の増加、教育格差など子供たちの教育を取り巻く環境は大きく変化している。この点ではキャロラインの生きた時代と異なり、彼女の教育論も適しない部分があるかもしれない。しかしながら、彼女が説く教育とはとても根本的なものであり、知を求め、神と他者を愛し、自然の中に身を置き、心身ともに健全で自立した人生を歩むことである。それゆえにオクタヴィアへ思想的影響を与えたように、今日の私たちにも影響を与える内容を含んでいる。教育の本質を捉える上で、彼女の思想の中に現代的意義を見出すことができるといえよう。

参考文献

- Darley, Gillian (1990) *Octavia Hill* London: Constable.
- Hill, Caroline, Southwood (1906) *Notes on education: for mothers and teachers*, Hill Octavia ed. (2012) reprinted ed., USA: General Book LCC.
- Hill, William, Thomson (1956) *Octavia Hill—Pioneer of the National Trust and Housing reformer* Hutchinson.
- Maurice, Edmund, C., ed. (1913) *Life of Octavia Hill as told in her letters* London: Macmillan and Co.
- 長尾十三二 福田弘 『ベスタロッチ』人と思想105 (清水書院、1991年)
- 中島直子『オクタヴィア・ヒルのオープン・スペース運動—その思想と活動—』(古今書院、2005年)
- ベル・E.モバリー『英国住宅物語—ナショナルトラストの創始者オクタヴィア・ヒル伝』(日本経済評論社、2001年)

注

- 1) これまでF.D.モーリス、ジョン・ラスキンおよび祖父サウスウッド・スミスについて考察した。その内容は聖学院大学総合研究所Newsletter Vol.19 No.1、No.2、Vol.21 No.5の拙著を参照。
- 2) Darley (1990), p. 18. Hill T. W. (1956), p. 28.
- 3) スイスの教育家。ペスタロッチはジャンジャック・ルソー (Jean-Jacques Rousseau, 1712-1778) の影響を受け、自然を賛美する考えに共感するとともに、従順性および抑制の必要性を認識して、独自の思想を展開した。彼は当時慈善行為として行われた施しによる貧困者救済を否定し、自助の精神こそが人間らしい自立した生活を実現するために、貧者に必要なものであり、このような精神の育成と支援は教育によって成し遂げられると主張した。それゆえにペスタロッチは教育を重視し、貧困層の子供たちの自立を支援する教育の場を設けたのである。それに付随して、人間の平等性を考えたキリスト教的人間観も根底に存在したのである。長尾十三二、福田弘『ペスタロッチ』1991年44-50頁。
- 4) ベル (2001)、9 頁。
- 5) ベル (2001)、8 頁。
- 6) オクタヴィア・ヒルによるPREFACEからの引用。C. S. Hill (1906) O. Hill ed., p. v.
- 7) *Ibid.*, p. v.
- 8) C. S. Hill (2012) O. Hill ed., reprinted ed., p. 2.
- 9) C. S. Hill (1906) O. Hill ed., p. 11.
- 10) C. S. Hill (1906) O. Hill ed., p. 12.
- 11) C. S. Hill (1906) O. Hill ed., p. 16.
- 12) C. S. Hill (1906) O. Hill ed., p. 15.
- 13) Hill, Caroline (1906), p. 13, 16.
- 14) 長尾 他 (1991) 101頁。
- 15) Maurice (1913), p. 4.
- 16) ペスタロッチは、従順なしには教育は不可能であると説いている。長尾 他 (1991) 45頁。
- 17) C. S. Hill (2012) O. Hill ed., reprinted ed., p. 3.
- 18) ベル (2001)、6 頁。
- 19) 中島直子 (2005)、155-157頁を参照。

(きむら・みさと 聖学院大学基礎総合教育部特任助手)